

令和7年12月11日発行
京都府丹後保健所 保健課
(丹後地域包括ケア推進ネット)

1 今年度の認知症啓発活動について

今年度の第1回圏域連絡会の際及び活動通信の前号(第37号)で、今年度からオレンジロードつなげ隊の啓発活動について「認知症本人とともに使う活動促進事業」に変更されたことをお伝えしました。

しかし、当事者本人とともに使う啓発活動を主体的に実施していただくことはハードルが高いように感じていますので、従来の啓発活動も継続して実施していただければありがたく思います。

啓発方法の変化に戸惑いがあったためか、例年に比べて春先の動きがありませんでした。11月末までの期間で行われた啓発活動の一部を掲載します。今後の参考にしてください。

◆認知症サポーター養成講座で「新しい認知症観」について説明



中学生へ



地域の集まりで

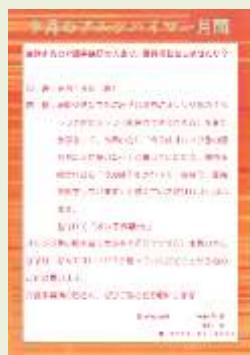


老人会で



◆オレンジ色のTシャツを着て啓発、名付けて「オレT作戦」を呼びかけ

宮津市内の事業所メンバーからの呼びかけで、丹後全域で実施してもらいました。



◆天橋立オレンジライトアップ (世界アルツハイマーデーに因んで)



◆オレンジひまわりを活用した地域住民への啓発

立札を作成し、
足を止めてもらえる
工夫も



隊員の畑でオレンジ色のひまわりを育て、地域の人と認知症について話をするきっかけ作りにされています。

◆与謝野町の認知症セミナー (従来のリーフレット配布による啓発を実施)



◆図書館、薬局、地域各所での啓発展示



各図書館、事業所等の窓口、
地域イベントの場で工夫を凝らした展示による啓発、
多くの職員がオレンジTシャツを着用されました。



令和7年10月9日に「若年性認知症支援研修会」を開催しました。

京都府認知症希望大使の下坂 厚さん、京都府立医科大学の成本 迅教授、京都府こころのケアセンターの木村 葉子さん（若年性認知症支援コーディネーター）の3名に、参加者からの質問にお答えいただいたり、当事者が望む支援とは何かをテーマに3者対談を実施していただきました。

当事者本人が語る言葉に、参加者の満足度も高いものでした。

同日開催として、写真家でもある下坂 厚さんの写真展も実施し、多くの参加者に認知症当事者が切り取る生活の一場面とその時感じた思いに触れていただけたのではないかでしょうか。

当日の様子や質疑応答などは、丹後保健所のホームページに掲載していますのでご覧ください。

<https://www.pref.kyoto.jp/tango/ho-tango/06jakunensei-r.html>

